



おいほま

発行：令和6年3月1日

校長 岡田 慎司

令和5年度 教育活動に関するアンケートの結果について

春寒の候、保護者の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。また、平素より本校の教育活動の推進にご支援ご協力をいただき感謝申し上げます。

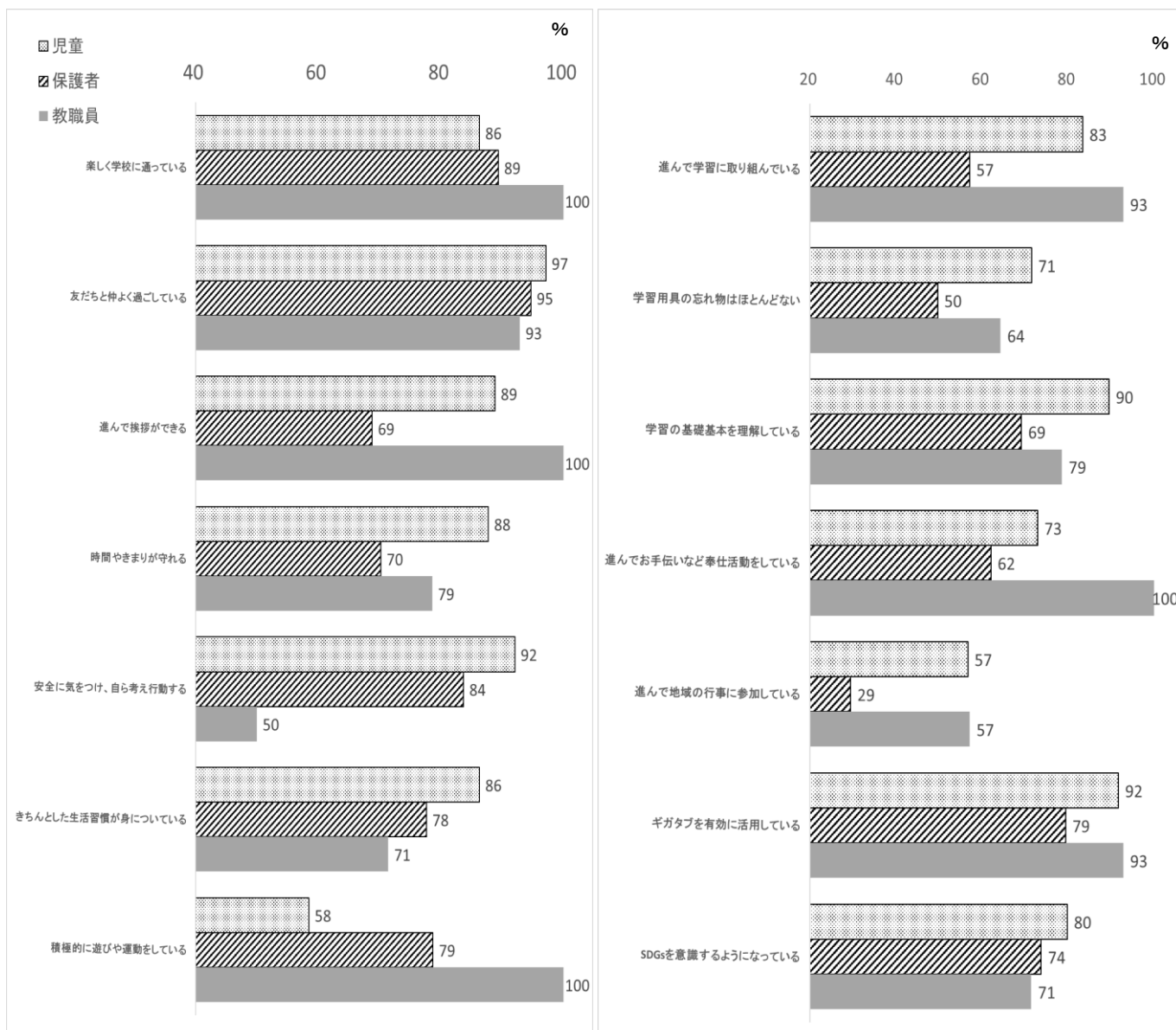
さて、1月に実施しました「教育活動に関するアンケート」では、ご多用の中、多くの貴重なご意見をいただきありがとうございました。アンケートの集約が済みましたので、その結果等についてお知らせいたします。

今回頂戴したご意見を参考に、本校の学校運営に生かしてまいりますので、引き続き、ご理解とお力添えをよろしくお願いいたします。

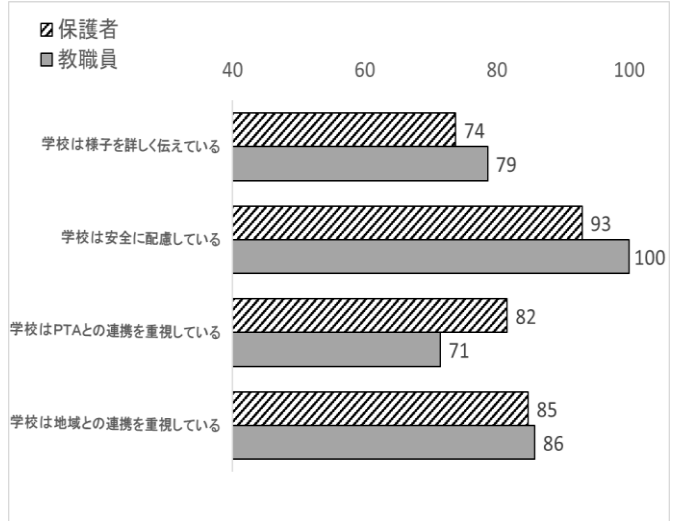
なお、本年度も「すぐる[保護者用]」や「ギガタブ(GIGA スクール構想により配備された端末)[児童・教職員]」を使用して実施しました。本件につきまして、ご意見やご質問等がありましたら、教頭(043-264-7200)までご連絡ください。

令和5年度 児童・保護者・教職員の肯定的回答の割合

回収率 保護者:87.3% 児童:90.4% 教職員 100%



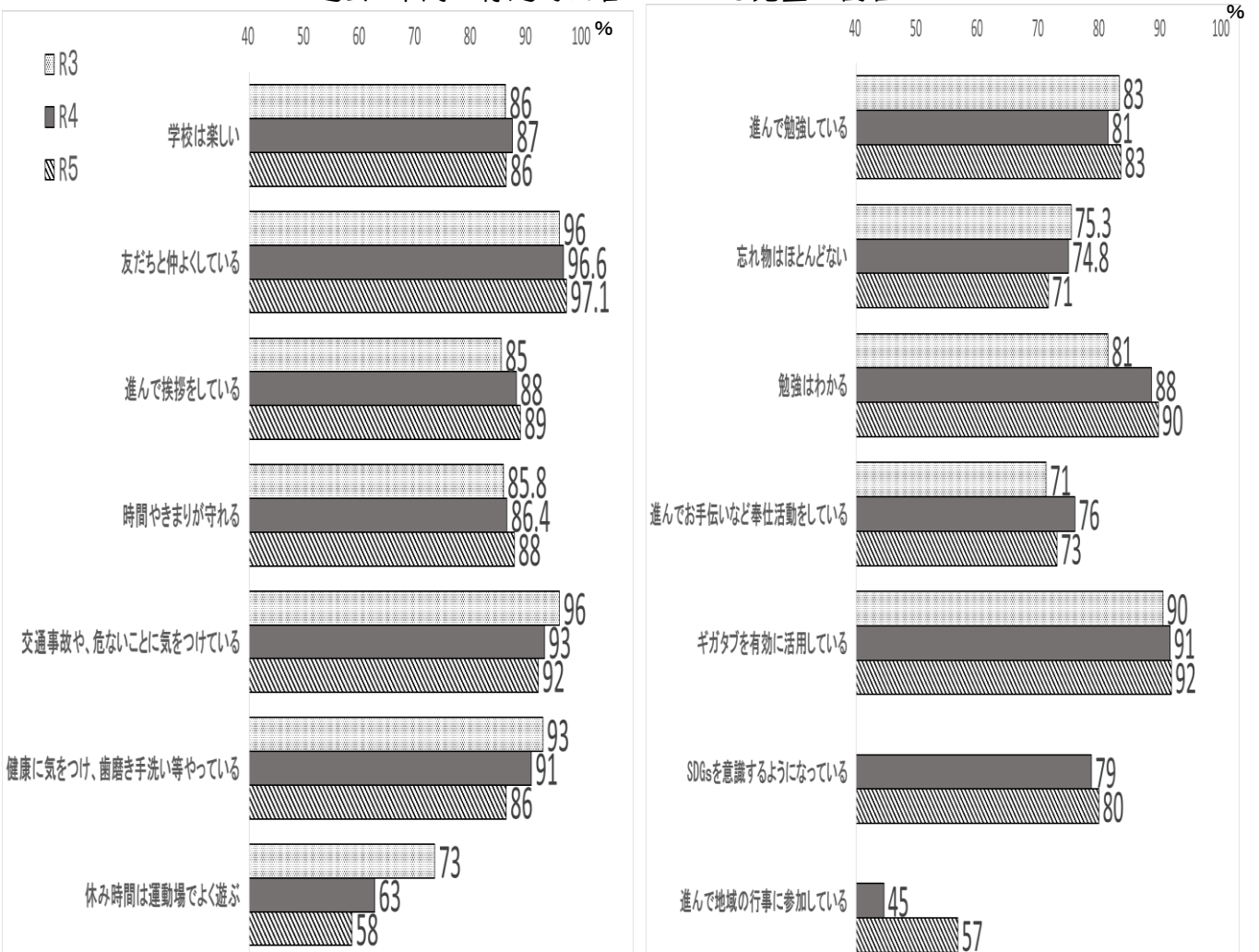
1ページのグラフを見ると、児童・保護者・教職員（以降3者と呼ぶ）の認識として、本校児童の姿をほとんどの項目で肯定的に捉えています。特に学校生活の中核にいる児童は、「進んで地域の行事に参加している」「積極的に遊びや運動をしている」以外の項目に対し70%以上が肯定的です。3者の認識を比較すると、「友達と仲よく過ごしている」以外でズレが生じています。「時間やきまりが守れる」「安全に気をつけ、自ら考え行動する」「きちんとした生活習慣が身についている」「学習用具の忘れ物はほとんどない」「学習の基礎基本を理解している」の5項目では、保護者や教職員よりも児童の方が「できている」と認識しています。これらの項目については、児童の自己肯定感を損なわないことを



第一としながら、保護者や教職員の目指す姿まで成長させるための手立てを講じていく必要があります。一方で、「楽しく学校に通っている」「積極的に遊びや運動をしている」の2項目については、保護者や教職員ほど、児童は「できていない」と捉えています。運動面においては、5月の新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、運動する機会や時間を設定してきましたが、児童を満足させるだけの取組ではなかったことがうかがえます。それでも、「楽しく学校に通っている」の項目では86%の児童が肯定的に捉えています。今後、さらに多くの児童が楽しく学校に通えるような教育活動を推進していく必要があります。

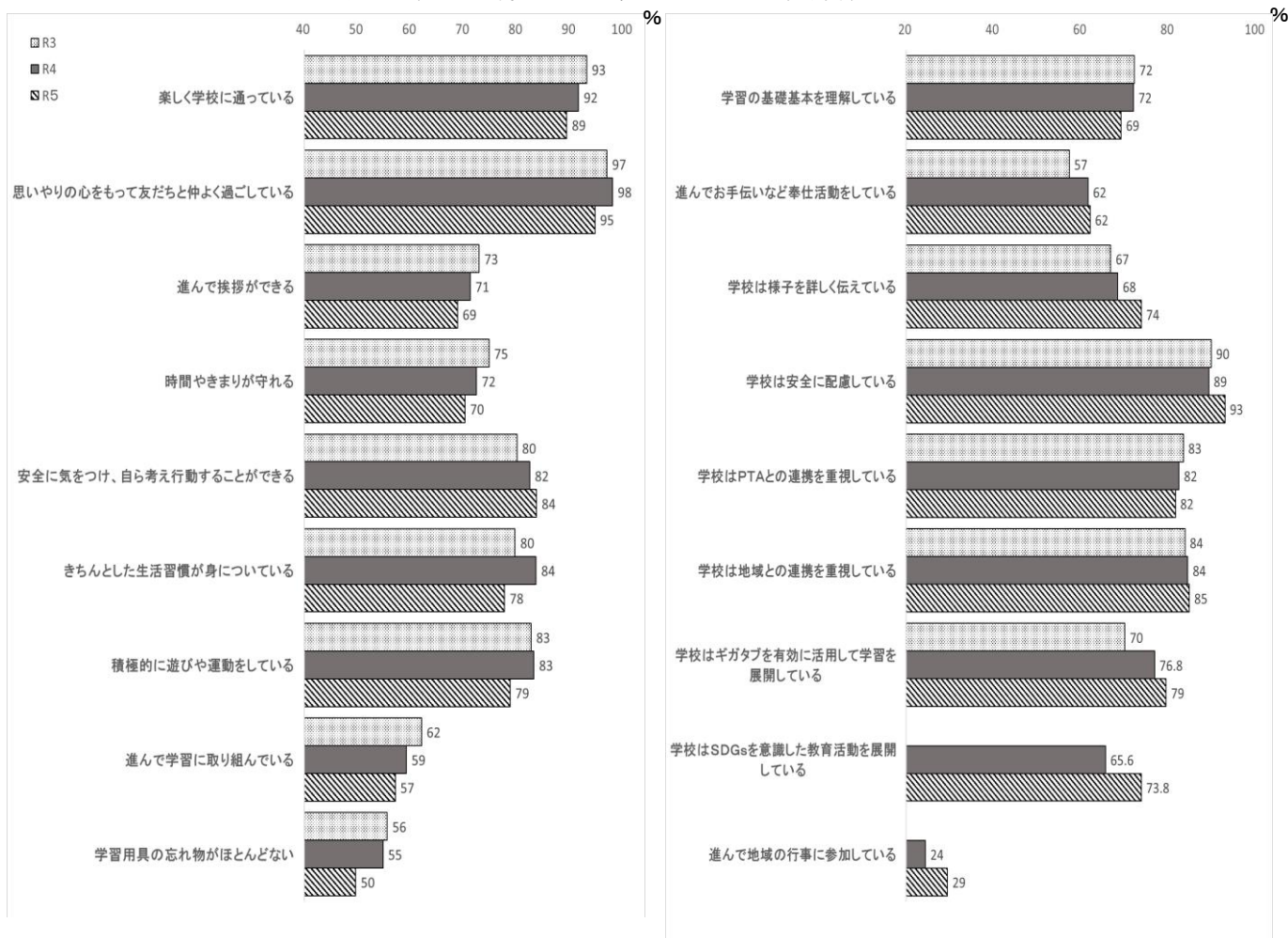
2ページ右上のグラフは、保護者と教職員の本校の教育活動に対する認識です。おおむね肯定的な評価をいただいています。「学校は様子を詳しく伝えている」「学校はPTAとの連携を重視している」の項目で課題が見られます。学校での児童の成長・変化の様子、学校での取組が保護者の皆様にも伝わるように努め、直接保護者に学校の様子を知っていただく機会を確保したり、発信する回数を増やしたり、発信方法を工夫したりする必要があります。PTAとの連携の在り方についてもPTA理事の皆さまと共に検討をしていきます。

過去3年間の肯定的回答をしている児童の割合



2ページ下段にある児童の過去3年間の肯定的回答を比較したグラフを見ると、全体的には大きな変化は見られませんが、経年で肯定的に捉える児童が少しずつ増えている項目が見られます。調査年度によって児童が回答する状況は異なりますが、本校児童の全体的な傾向として、各項目の内容について一步一步成長を続けているといえます。今後は、肯定的に捉えることのできていない休み時間の外遊びや忘れ物、奉仕活動について、継続した指導や支援の内容と方法の工夫が必要です。

過去3年間の肯定的回答をしている保護者の割合



上の保護者の過去3年間の回答比較のグラフを見ると、「進んで挨拶ができる」「時間やきまりが守れる」「進んで学習に取り組んでいる」「学習用具の忘れ物がほとんどない」の4つの項目において、肯定的に捉えている保護者が年々減少しています。どれも家庭との連携が必要な項目であると考えます。学校では生浜スタンダードをもとに必要感をもたせられるような声かけをしていきます。ご家庭での支援もお願いします。児童の学習への取組や奉仕活動について、3者の比較や保護者の経年比較の結果から、家庭での学習や奉仕活動に課題があることがわかります。今後は、家庭と連携しながら、家庭学習の方法を身につけ、習慣化を図るための自主的学習の内容や方法を工夫したり、家族の一員として奉仕活動に取り組む意識を、児童がもつよう指導や支援をしたりしていく必要があります。

【今後の取組(重点)】

- ① 楽しく学校に通ってもらうために、生命(いのち)の安全教育に力をいれるとともに、ふれあい相談や体罰・セクハラアンケート、いじめアンケート時の児童一人一人の実態把握を丁寧に行い、休み時間等における児童とのコミュニケーションを図ります。
- ② 保護者へ学校の様子を伝えるために、児童の授業を含めた学校生活の様子を、直接見ていただく機会を可能な限り設定します。また、「すぐーる」を活用し学年だよりや学校だより等を積極的に配信したり、学校ホームページを活用し、児童の成長や学校の取組を伝えたりしていきます。
- ③ 奉仕活動に意欲的に取り組む児童を育むために、学年の発達段階に応じて、家族の一員であることを自覚させるような指導や支援の充実を図ります。また、自ら学習に取り組む児童を育むために、学習者中心の学びを意識して、児童一人一人が意欲的、主体的に取り組めるような指導や習慣化を図るための自主的学習の内容や方法を工夫改善していきます。ご家庭での声掛けもよろしくお願いします。

アンケート記述欄に記入いただいた保護者の声のうち、全体に関わることの一部をお答えします。

お弁当の日・給食について

千葉市では平成20年度より、「青少年の日」「家庭・地域の日」を制定したことに伴い、取組の一環として、家族でのつながりや親子でふれあう機会の充実を目指し、さらには家族に対する感謝の気持ちを育むために「お弁当の日」を設け、市内一律に実施してきました。

これまで、「お弁当の日」を通して、家庭のつながりを深めるほか、食育の推進をするなど、一定の効果がみられた反面、近年は、子どもをとりまく社会環境の変化が見られ、少数ではありますが、お弁当を持参することが難しい児童生徒もいることから、令和6年度以降は「お弁当の日」については、市内一斉に実施するのではなく、各学校の判断により独自に取り組むように千葉市教育委員会より連絡が入りました。「お弁当の日はあまり意味がなく負担なのでなくしてほしい」という意見をいただきました。

家族のつながりや親子でふれあう機会の充実、食の大切さを親子で考えるといった観点からどのように実施していくか現在検討しております。「お弁当の日」を実施しない場合でも、別の機会に、家族でのつながりや親子でふれあう機会の充実を目指すとともに、多方面から食育を推進していきたいと考えております。決まり次第、学校だより等でお知らせします。

「長期休業の前後も給食を提供できるようにしてほしい」との意見もいただきましたが、千葉市では給食実施可能日が定められており、令和6年度も今年度と同様程度の給食回数となる予定です。ご理解とご協力をお願いします。

ギガタブの活用及びオンライン授業について

今年度も学習効果を意識した活用に向け、各学級で取り組んできました。活用に関してさまざまな意見をいただきました。「連絡帳がギガタブになったのは助かります」「板書を書き写すのに個人差ができてしまったときは、クラスルームにのせてほしい」「ドリルパークは現在どこまで進められるのかを毎月のお便りで知らせてもらえると子供にも目標を伝えられる」「ギガタブでの連絡の更新が遅かったり、夜確認するとエラーになったりするので、連絡帳のほうがありがたい」「毎日持ち帰るので、荷物が多いときに重たいようだ」「ギガタブをどのように活用しているのか具体的に知りたい」「欠席したときや学級閉鎖の時、オンラインの授業があつてとてもありがたかった」(一部省略及び改変あり)ギガタブでの情報共有を有効と肯定的にとらえている保護者が多いようです。今後もギガタブの日常的な活用を推進していきたいと考えております。ご家庭におかれましても、ギガタブをはじめとするICT機器の使用や情報モラル等について、一緒に指導していただけたら幸いです。また児童が深夜遅くまで使用することを避けるため、夜22時から朝5時まで、ギガタブはオンライン機能を停止します。連絡の更新時刻やドリルパークの進度のお知らせについては前向きに検討していきたいと考えます。今後は、学校外部とのオンラインを活用した授業や各教科等での活用の充実と、計画的な情報モラル教育の充実も図ってまいります。

先生方が子ども達と一緒に熱心に指導してくださっているので感謝しております。

今年度は、5月の新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、コロナ禍の経験を踏まえ、「よりよいものを作り上げる」ことを合言葉に教育活動に取り組んできました。学校行事においては、少しでも児童の思いや願いを実現しようと、児童に寄り添うことを意識しながら教育活動に励んできましたが、教育活動全体ではまだまだ改善すべき点もあったかと存じます。そのような中で、このような温かい言葉を頂戴し大変うれしく思います。これからの励みとなりました。改めて保護者の方々のご理解とお力添えに支えられていると感じます。本当にありがとうございます。引き続き、児童のよりよい成長のため尽力してまいります。

このほかにも、感謝の言葉や励ましの言葉もいただきました。また、具体的な事例に対してご要望やご意見等もいただきました。いただいたご意見は教職員で共有し、改善すべき点を精査し、今後の学校経営に生かしていきます。ご協力ありがとうございました。